

阪急阪神ホールディングス株式会社第64回無担保社債（社債間限定同順位特約付） （サステナビリティボンド）レポート結果（2023年3月末日時点）

1. サステナビリティボンドの概要

名称	阪急阪神ホールディングス株式会社第64回無担保社債 （社債間限定同順位特約付）（サステナビリティボンド） （別称：阪急阪神ホールディングス第1回サステナビリティボンド）
発行総額	100億円
発行年限	5年
利率	年0.100%
条件決定日/払込日	2021年12月2日/2021年12月8日
償還日	2026年12月8日
取得格付	AA-（JCR）、A+（R&I）
評価機関	R&I

2. 資金充当状況

2021年12月8日発行の本サステナビリティボンドによって調達された資金は、下表のとおり全額
充当済みとなっており、未充当残高はございません。

適格プロジェクト	資金充当額	未充当残高	該当プロジェクト
環境に配慮した建物	100億円	—	梅田1丁目1番地計画
安全・安心のための施設の提供			
周辺公共施設の整備			

※調達資金のうちリファイナンスの割合：90%

3. インパクトレポート

環境に配慮した建物		
レポート項目	2022年度（2022年4月～2023年3月）	
・総床面積（※）当たりのエネルギー年間使用量	120,150 GJ	
・総床面積（※）当たりの年間二酸化炭素排出量	866 t-CO2	
・総床面積（※）当たりの年間水資源使用量	62,299 m ³	
【認証等の取得数】		
・DBJ Green Building 認証5つ星		
・CASBEE 大阪みらいSランク		
・CASBEE スマートウェルネスオフィス認証Sランク		
・サステナブル建築物等先導事業（省CO2先導型）		

（※）百貨店部分は除く

安全・安心のための施設の提供



(1) 一時避難・滞留スペースの受け入れ可能人数を含む防災機能に関する設備概要

地震の揺れを低減する先進の制振構造や、地震発生時に建物の健全性を短時間で判定する「構造ヘルスマニタリングシステム」を採用するほか、以下の取組により、災害発生時における在館者の安全確保と入居企業の事業の継続（早期復旧）が可能となっています。

- ・自家用発電機を設置し、停電時にも最大72時間の電源供給が可能
- ・テナント用発電機の設置スペースを確保（一部区画のみ）
- ・津波等による浸水リスクに備え、防災センターを2階に、重要基幹設備を9階以上に設置
- ・信頼性の高い耐震性高架水槽を採用し、災害時にもトイレ洗浄水等が利用可能
- ・館内のデジタルサイネージを活用し、災害時に緊急情報等を発信

【一時滞留・避難スペースの受け入れ可能人数】

- ・帰宅困難者の一時滞留スペース：カンファレンスゾーン等（約1,250人）
- ・津波発生時等の一時避難スペース：カンファレンスゾーン・屋上広場・2階デッキ等（約3,200人）

(2) テナント向け備蓄倉庫の規模

オフィスゾーン各階に備蓄倉庫（総面積約440㎡）を設置しています。



周辺公共施設の整備

(1) 大阪駅前地下道の拡幅整備工事実績

大阪駅前地下道（全長約200メートル）の整備工事により、地下通路のクランク形状の解消と、従来幅員約5～8メートルから約15メートルへの拡幅を行い、歩行者の安全性、快適性、分かりやすさの向上を図りました。

(2) 敷地周辺のバリアフリー化および新梅田歩道橋の工事実績

スロープ整備やエレベーター新設により地下通路の段差解消を行うとともに、新梅田歩道橋から繋がるデッキの新設、併せて地下・地上・デッキの3層が繋がるエレベーターを各所に整備し、重層的な歩行者ネットワークの構築とバリアフリー化を行いました。また、新梅田歩道橋の耐震性向上、美装化工事を行いました。

